

ティータイム

校長 野村 明男

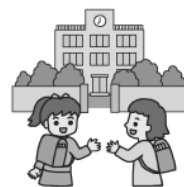
あたたかな春の季節になってきました。新学期を迎え子供たちは一つ学年が上がった喜びとやる気をみなぎらせて元気に登校してきました。

今年度も「長所が伸びれば短所は消える」「短所を矯正しても長所は伸びない」この言葉を信じて子供たちのよい面を認め励まし、一人一人の力を伸ばしていきたいと思えます。ただし、わがままな言動やきまりを守らない行為は短所とは言わずよくない行為なので、家庭と協力しながら身に付けるべき正しい生活習慣を粘り強く躡たいと考えます。

今年度の「経田っ子だより」は表面に行事予定等を載せ、裏面は「ティータイム」にリニューアルしました。昨年同様に子供のよさ、学校の取り組み、子育ての秘訣等を発信して、家庭と学校をつなぐ架け橋になればよいなと思っています。よろしくお願いします！

目指す学校像

一人一人のよさを伸ばし、明日も学校へ行きたくなる学校づくりを目指します。
全校欠席0の日－50日を目指します。(昨年は19日)



始業式で話したこと

始業式では、がんばってほしいことを3つ話しました。

1つ目は「元気にあいさつをしよう」です。「おはようございます」「こんにちは」はもちろん、自分が何かしてもらった時は「ありがとう」の言葉でお互い気持ちよくなりましょう。

2つ目は「だれにでも優しくしよう」です。困っている人には進んで手を差し伸べましょう。またけんかや相手にいやな気持ちをさせたときは、先に「ごめん」と言えるようになりましょう。

3つ目は「人の話をよく聞こう」です。人間は生まれてくる前、お母さんのお腹の中で目や鼻は働きませんが、耳だけは働いて脳が発達してきます。だから、学習は聞くことから始まります。

終業式にはこれらのことがどれだけ頑張れたか、お話しします。

経田小学校の子供たちは素直でよくがんばる子です。みんなで協力して経田小学校のすばらしい伝統を守り、一人一人目標に向かって力いっぱいがんばりましょう。



何事も「シンプル・イズ・ベスト」

学校運営方針を教職員に話した時の最後に野球の松井秀喜の言葉を紹介しました。彼は「いつもシンプルに考えている。あまい球を待ち構え、強くたたく。」と述べていました。なんと分かりやすい考え方でしょう。いろんな打撃理論はありますが、物事を単純化し、何が基本か見極めて自分を信じて黙々と練習した成果が、後に偉大な功績になったのだと思います。学校では「よく聞き、よく考える、よく話す」この3つが基本で漢字や計算の基礎をしっかりと身に付けることが、どんなに時代が変わっても大切なことだとシンプルに考えています。



「鳴かぬなら それもまたよし ホトトギス」



パナソニックの創業者で経営の神様と言われた松下幸之助の言葉で、鳴いても鳴かなくてもホトトギスであることには変わらない、「鳴きたい時に鳴くのもよし。鳴きたくなければそれもよし。」という言葉があります。個人の気持ちを尊重する彼の心をよく表しています。

徳川家康の「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス」も、子供に置き換えると今はできなくても辛抱強く待てば、いずれ出来るようになるという考え方でいいなあと思っていましたが、「それもまたよし」は自然のまま、自然に生きるのが人として一番美しいという何か肩の荷が下りる感じがします。子供を丸ごと受け入れるいい言葉だと思います。お子様を見ていて親の思い通りにならないときは、この言葉を思い出してみてください。ここで一句「愚痴ばかり それもまたよし 古女房」